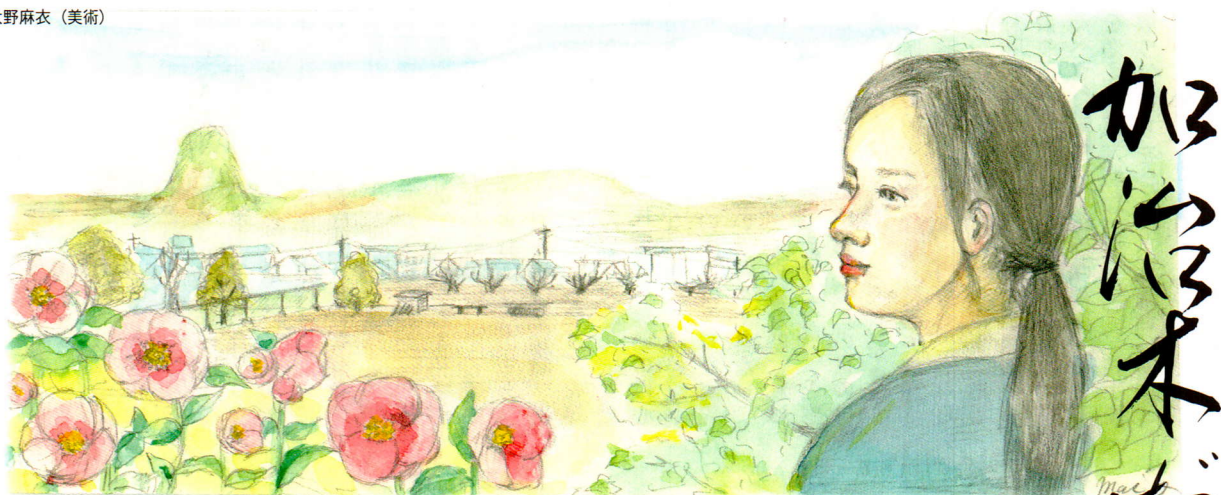


絵：大野麻衣（美術）



「できた人間」とは

校長 黒木 浩二



「先生、この近所に感心な生徒さんがいるんですよ。火曜と木曜日は、毎朝ゴミを出して、それから学校に行くんですよ。朝補習もあって大変でしょうに、いやな顔ひとつ見せずに。ホント感心ですねえ。」

「いやあ、そうですか。うれしいですねえ。私も見習わんといかんですねえ。でも、学校にはほかにも感心な生徒が結構いますよ。先生がついていなくても一所懸命掃除をする子とか、多くの人の前でしっかりと話ができる子とか。頭が下がります。高校時代の私なんか足元にも及びません。」

「まあ、ご謙遜を。でもたしかにできた子っていますよね。」

「そうですね。年上とか年下とか関係ないですよねえ。できた

人間って、高校のころからできますよね。」

学校近くのお店（？）で、年配の店員さんと交わした会話です。ご自身も本校OG、お子さんも皆さん本校同窓生とのこと。お陰で加治木高校の制服に出会うと、今でも目が追いかけてしまうんですよと笑顔。わずかな時間でしたが、心温まる会話でした。

帰る道すがら、余韻を味わいつつ「できた人間」について考えてみました。おそらく話題になった生徒には「できた人間」としての自覚などないでしょう。勉強のこと、将来のこと、友だちのことなどで頭は一杯、自信を失ったり、自己嫌悪に陥ったりすることもあるはず。しかしそれでも「できた人間」は「できた人間」です。いったい何ができているのでしょうか。

型ではないかと思えます。人と

しての基本的な型ができているのではないかと思うのです。

家事の手伝いをすんなり果たす、陰ひなたなく勤めを怠らない、聞き手の思いを斟酌しながら人前で話をするという型。ほかにも自分の今を人のせいにはしない、人を見下さない、知り合いと道で出会ったらあいさつをする、など、人自身につけるべき基本的な型はさまざまです。それらの型が身につく、何の抵抗もなく表現できる人のことを「できた人間」と言うのではないのでしょうか。

かつて日本を訪れたイエズスの宣教師たちは日本人の品位の高さに驚嘆したそうです。おそらくその品位を支えていたのはこの型ではなかったかと思えます。そして今はやりの「オ・モ・テ・ナ・シ」。ここにも型に通底する何かを感じ取ることができるように思われます。

それにしてもあの店員さん、なかなか「できた人」とお見受けしました。

第 33 号
2014.3.3
加治木高等学校
PTA発行

〒899-5214
鹿児島県姶良市加治木町
飯屋町211番地

校長あいさつ		P 1
生徒指導・保健・進路指導の各部より		P 2
学校行事の感想		P 3
一日遠行・卒業に寄せて		P 4・5
卒業生へはげましの言葉		P 6
部活動大会入賞記録		P 6

「礼儀」

生徒指導部 富田耕作

私たちはまれに、「あの人は礼儀正しい人だ。」とか逆に「あの人は礼儀知らずな人だ。」というような表現を用いて人を評価することがある。そこで、「礼儀」とはそもそも何だろうと思ひ考えてみた。辞書では、「人間関係や社会生活の秩序を維持するために人が守るべき行動様式、特に敬意を表す作法。」と書かれていた。要するに、相手を敬う気持ちが大切なのだ。相手を敬う気持ちがあつてもそれを相手に伝えるのはなかなか難しい。そこで作法というものが生まれてきたのである。礼儀は「心」で作法は「知識」といったところだろうか。「作法」を知らないのは知識がないだけなのでまだ救いがあるが、「礼儀」がないのは心が伴わないのでどうにもならない気がする。時折、自分の主張ばかりを優先し、他の考えや思いを尊重できないでいる人に遭遇する。その様な時に私は「この人は礼儀知らずな人だな。」と感じる。「個性偏重主義」のこの世の中で、この人は「個性」と「わがまま」の区別もつかなくなり、持論を展開させ続けているのだな、自分もこうならないように気をつけなければと、ある意味勉強をさせられる。人間関係や社会生活の秩序を維持するために人が守るべき行動様式は様々な場面での形を変える。大切なのは「心」。相手を敬う気持ちを持って、「権利の主張」のみに陥ることがないように、気をつけなければならない。日本古来の伝統文化である武道の世界では、特に「礼」

を重視する。稽古は礼に始まり礼に終わる。人間関係も同様に礼。礼儀を重んじていけば円滑に進んでいくものなのだろうと信じる。しかしながら、誰もが完璧な人間ではない。失敗したらとりあえず謝る。逆に謝られたら、気持ちよく許す。そんな関係が望ましいと思う。

加治木高校生を支えているもの

保健部 松下直子

今年度の文化祭における生徒保健委員会のテーマは「食生活」となった。遠距離通学している生徒も多いことから、朝の補習時間から放課後の部活動や自習時間まで長時間過ごしている生徒達の食生活について調べることにした。各学年4クラスずつにアンケート調査を実施した結果、毎日の朝食の摂取率は94%、昼食は99・1%で、その内訳は「自宅で作ったお弁当」が97・9%、次に「学食」が多く、夕食を摂る場所は、自宅96・8%や塾21%であったがほとんどの生徒が予想以上にしっかりと食べていた。

また食生活への満足度は「満足・まあ満足」が91・4%で「やや不満」は74%だった。

文化祭ではお弁当の写真も展示することになり、偶然、近くで食べていた野球部生のお弁当を撮らせてもらった。食欲旺盛な男子のお弁当らしく、ボリュームがあり栄養バランスを考えて作られていた。中には二段弁当に加えて味噌汁やバナナ・パンを持参している生徒もいた。愛情のこもったお弁当に感激しながらシャッターを切った。また保健委員の女子生徒達が持ってきた

お弁当は、食材が豊富で彩りが鮮やかでとても美味しそうであり、料理の本に載っているような弁当だった。遠距離通学生生の家族はいつたい何時に起きてこの弁当を作っているのだろうかと思像すると頭が下がる思いであった。一週間のうち生徒が自分で料理を作る頻度は、「毎日」と「時々」を合わせても29%であり、約71%は家族に準備してもらっている。今回の調査は、食事面での保護者の熱い思いを知る機会となった。そして全国で実施している調査結果と比較しても、本校の生徒は大変恵まれていることを実感した。願わくば、この充実した食生活を進学後も生徒自身の手で続けてほしい。折しも昨年は「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録された。この遺産をぜひ生徒達に受け継いでいってもらいたい。それがさらに生活力への自信に繋がるかと信じている。

美しい顔

進路指導部 川崎辰也



「ああ、いい滑りができた。満足度が高い」ソチ冬季五輪でフリースタイルスキーの女子モーグルで上村愛子選手はあと一歩で念願であったメダルには手が届かなかったものの、完全燃焼した表情がとても晴れやかでした。目は潤んでいましたが、人が一つのことに一心不乱に打ち込んでいる時や、何かをやり遂げた時にみせる「美しい顔」が実に印象的でした。

上村選手は今回五回目の五輪出場です。

過去には悔いの残る五輪を経験してきました。彼女は、満足いかない結果に終わった原因について「五輪で勝つ準備をしている人が五輪で勝つ」と語っています。勝つためには、情熱や才能という要素の他に、設定した目標に向けての周到な準備が必要だということでしょう。

卒業生の皆さん、これからは様々な戦いの場に一人で立ち向かうことになります。闇雲に進んだり、自分には無理だと諦めるのではなく、まずは冷静に何をすべきか考えてほしいと思います。本当の実力は、周到な準備とそれを実行するための計画の中で発揮されるものです。

さて、今年度も目標達成への大きな試練である大学入試センター試験が1月18日、19日に実施されました。本校三年生は鹿児島大学法文学部で、264名の生徒が受験しました。一・二年生の皆さん、いよいよ来年度のセンター試験本番まであと十ヶ月余りとなりました。センター試験に打ち克つための準備はできているでしょうか。本番までの日々の中で、今何をすべき時か、そしてあと残りの期間で何をどのような進めしていくのか：冷静に考えて着実に実行して欲しいものです。「やればできるはず」と才能を過信していませんか？「とにかく合格したい」とただひたすら願っていませんか？

「五輪には魔物が棲む」といわれませんが、センター試験、大学入試も然りです。そこで勝てる人とは、そこで勝つための準備をしている人なのです。

加治木高校生諸君の「美しい顔」を期待しています。

平成二十五年度一日遠行

体育科 若山 和佳子



台風の影響で竹山ダム入口から道路が全面通行止めになり、やむなくコースを短縮して実施することになった一日遠行。直前まで降っていた雨もあがり、瑞々しい空気が漂う爽やかな秋空の下、野村教頭のピストルの合図で二六七名の女子生徒が一斉にスタートした。ぬかるんだトラックを一周し、トレーニングコースを駆け抜け、まずは「翔ぶがごとく」のロケ地にもなった龍門司坂を目指す。女子の先頭が龍門司坂にさしかかる頃、続く286名の男子生徒が二十分遅れでスタートした。雨あがり、滑る石畳を踏破。登り切ると色づく紅葉と激しいアップダウンが待つさえずりの森。スピードのある男子が女子生徒を一気に抜き去っていく。森林浴を楽しみ、のどかな田園風景の一本道へ。辺川集落に辿り着いてス



タートして約八キロ、待ちに待ったPTAの温かいおもてなし。飲み物・漬物・飴のひと味違う美味しさに感嘆の声。昨年まで使用できたスペースが使用せず、旧小学校跡地の階段を何十回も往復し、保護者も足腰を随分と鍛えられた。エネルギーを補給した生徒達は、臨時第一チェックポイント竹山公民館へ。竹山ダムを一周していた昨年と違って、生徒達の表情・脚力にもまだ余裕がある。「昼前に帰る着くかも。」と希望を抱かせ喜び走り出す素直な生徒達。座り込む生徒もほとんど見かけないまま早いペースで折り返していった。往路と復路がすれ違う時互いに励ましエールを送りあう姿や、ゴミ拾いをして歩く姿、体調を気遣い寄り添う姿、ほとばしる汗が気持ちよい姿、ひとり黙々と己と闘う姿など、普段目にするここのない素晴らしい光景が詰まっている。十時四十一分男子先頭ゴール。遅れること三分女子先頭もゴール。共に一年生で来年度がまた楽しみだ。十四時前には全員ゴール。事故・怪我なく無事に終了できて何よりだった。来年度は本来のコースに戻るだろう。最後に毎年の地域・PTAの御協力に心より感謝したい。

百聞百見は一験にしかず

二年主任 福元 裕樹

右へ左へ、ソチで開かれている冬季オリンピックの中継を見ながら、思わず体を揺らす。体重移動がコツなのだ。オリンピックの楽しみ方が変わった。

平成25年度の修学旅行は12月中旬に実施された。スキー研修を中心の3泊4日の強行軍であった。二便に分かれての出発、先発組はボーイング787の最新鋭機、私のいた後発組はLCC機、なにか損した気分が修学旅行は始まった。

羽田からバスに揺られて6時間、関東の夕暮れは早い、志賀高原の坂にさしかかる頃には、すでに真つ暗となっていた。「雪だ!」誰かが叫んだ。ライトに照らされて雪が舞っている。目をこらすと周りは銀世界である。私達は雪国に降り込まれた。

初めてのスキー研修、スキー靴に締め付けられて足が痛い、そもそも長い板などつけてうまく動けるはずもなく、さらに動かないと寒い。ただただ辛く心が折れると嘆いていた生徒達が、インストラクターの丁寧な指導を受け、翌日には、みんな上手に滑り出した。「スキー大好き!」って誰かが叫んだ!

長野市内にある善光寺の「戒壇巡り」、



漆黒の闇の中で「極楽浄土への錠前」に触れそなた。また来よう。

東京は夜になると姿を変える。首都高を横浜中華街へとひた走るバスから眺める夜景が綺麗だった。ドミノ倒しのように延々と続く電飾ジャングルに日本の豊かさを思い知った。

東京スカイツリーが揺れる。強風でエレベータが自動停止する仕組み。風が段々と強まり、加治木高校の最終組が昇った直後に昇りの受付が停止された。降りる方は風が弱まりエレベータが動く瞬間を狙う。ずいぶん待たされてやっと降りられたときはほっとした。展望台は非常階段で2500段の高さ。関東一円を見渡す眺めは圧巻である。

三方面に分かれての東京研修、上野や浅草も楽しめたが、参加者の満足度が高かったのは大学(東大・早稲田大)訪問だった。

高校生活の中のたった4日間、短い日程に多くの体験を詰め込んで、修学旅行は、その目的を達成した。



加治木高等学校 第17回一日遠行

2013年(平成25年)11月15日(金)実施

- ・参加者：1・2年生558名(男子289名・女子269名)
- ・距離：男女共に約21km
- ・コース：学校→龍門司坂→さえずりの森→辺川公民館→竹山公民館
- ・給水所：2ヶ所・PTA保護者・役員協力：39名

「一日遠行」に寄せて

厚生部長 三年P

丸山 淳子

「お花が綺麗ですね。」って挨拶したら、おみやげにつて頂いちゃった。」

「一日遠行」を終えて帰宅した一年生の長女の言葉と美味しそうな柿にびっくりしました。沿道で応援してくださいました地域のの方々の心温まるエピソード。この行事が、地域の方々にも馴染み、愛されているのだなと感じ嬉しく思いました。

「一日遠行」は創立百周年を記念して一九九七年(平成九年)に始まったそうです。そして、今年度の一年生として入学してきた子ども達の多くも平成九年生まれということもあり、同じ年輪を刻むなかで、どれだけ多くの学生たちが同じ景色を眺め、輝く汗をこの道に落としていったことだろうと、改めて思いを馳せる事でした。

最後になりましたが、この行事を支えてくださいました保護者の皆様と先生方の温かい御支援

に心より感謝いたします。本当に有難うございました。



遠行の歴史です



一日遠行は1997年(平成9年)加治木高校創立百周年を記念して始めました。毎年11月に開催され1・2年生が参加します。

一日遠行開始の頃、男女とも35Km ◆ 1997年・第1回～2007年・第11回まで

始良寺師十文字→県民の森中央広場→薬草園→竹山ダム→提水流三叉路→

→龍門司坂(下)・学校ゴール

- † 始良・溝辺・加治木の3町を駆ける男女共35kmの難コース 給水所6箇所
- † 数回目から女子のみ北山野外センター前スタートになり約28kmとなった。
- † 提水流三叉路は2006年まで。2007年から辺川のJAあいり辺川支所前給水所



学校～竹山ダム往復コースに変更 ◆ 2008年・第12回～2013年・第17回

学校→龍門司坂(上)→辺川→竹山ダム【折り返し】→辺川→龍門司坂横の道を下りる・学校ゴール

- † 学校から竹山ダムまでの折り返し往復コースに変更。
- † 距離は男女共同約24km～27km(ダム一周含む)
- † 給水所は辺川(往復)竹山ダム(往路)龍門司坂(復路)の3箇所 学校なし

遠行名物たぐあん!!



豚(げん)をかついて17年間ずーっと同じ銘路。以前はこれを求め、都塚まで買い出しに行っていたとか。保護者も遠行の無事を祈り、毎年お手伝いをしています。

へがわ 辺川公民館給水所

学校から約8km 往路初の給水所です!



あめにチョコレート・たぐあん・干し梅・麦茶 みんなに行き渡るように準備完了!



往路・復路給水の為 道の両側に生徒たちを待ちます。公民館から道路までお茶を持って何往復も...

2・3年部保護者の方24名にご協力いただきました



竹山公民館チェックポイント

学校から約10km 折り返し地点。チェックカードで通過を確認。担当は男子ハンドボール部

さえずりの森給水所

昨年までの「龍門司坂給水所」から場所を移動。学校まで残りあと約4km。緑の中を駆け抜けます。



1年部保護者のみなさん(13名) 西溜PTA会長、監事の大塚さん、古野先生・大迫先生と一緒に♪

アップダウンの激しい道。水分・塩分・糖分を補給しひと休み。最後の力を振り絞り チェックポイントへ向け再び走り出します。



龍門司坂チェックポイント

学校まで残り3km。下り坂が続きます。担当は剣道部。



往路は歴史ある石畳を上って行きます。

加治木高等学校

続いて9時20分男子スタート 野球部 気合十分!

Start



午前9時女子スタート このうしろ姿は? 事務長さんと一緒に!



Goal

最終制限時刻 15時30分

今年は距離が短かった為、最終ランナー学校到着は14時ごろでした。各自タイムを書いて終了です。



ありがとう 加治木高校

3月3日、第66回卒業生が羽ばたきます。
加治木高校での思い出や卒業によせる思いを
4名の保護者の方に書いていただきました。

題字：米丸貴之先生(芸術科 書道)

卒業



感謝

三年P 工藤 陽子

「いちばん大好きだよ」と言っ
て育てた娘も、背中の羽をゆっく
りと広げ、羽ばたく準備をしてい
ます。どんな日も黙々と走り続け
た娘にとって、陸上部で鍛えた精
神力や温かい仲間との絆は、最高
の財産となりました。

先に卒業した長男も、高校時代
に培われた人間美学で、フイリピ
ンやネパールで国際ボランティア
のリーダーとして汗を流していま
す。「あげる」つもりで行く奉仕
活動も、元氣や支えなどを「もら
い」帰国する、と瞳を輝かせます。
転勤族の私達にとって、加治木
高校という大きな愛に包まれて刻
んだ時は、至福の時でした。温か
く見守って下さった先生方をはじ
め、出会えた素敵な方々のことは
忘れません。有り難うございまし
た。またお会いしたいです。



2013年1月県地
区対抗女子駅伝出
場！ 昭良地区のア
ンカーとして力走

2012年一日遠行
女子1位

黒木浩二校長や先
生方、陸上部の仲
間や両親も応援に。
(横断幕は陸上部
保護者手作り)



(感謝) ∞ 加治木高校

三年P 川路 直子

「高校野球をしたい。」
その思いだけで、場所も知らない
のに二次募集を受験。学業の方は
ついていけるはずはなく、でも野
球だけは全力投球の息子。

二年生時の一日遠行。内緒でわ
たしも参加。女子と走っていると、
背後に途中一位の男子の足音とバ
イクの音。顔を見てびっくり。な
んとわが息子。野球部での走り込
みのおかげ。

春の県大会。マウンドを踏んだ
姿に感涙し、わたしは屋久島へ単
身赴任。家事の苦手な父親と妹二
人、不自由な生活の中、息子は夏
の県大会に向けてファイト！とし
て、すばらしい友、先生方、保護
者の方々に温かく支えられ、やっ
とここまで到着。吉野からの通学
ご苦労さん。

息子に高校野球をプレゼントし
てくれた加治木高校。母は、加治
木高校ファンクラブ屋久島支部長
として今日も感謝無限大。



↑2013年3月24日、県予選
初戦突破！(県立鴨池)

2012年11月の一泊遠行に
参加！
辺川給水所で生徒に交じり
栄養補給中の川路さん →



感謝

三年P 喜田 千津子

娘が入学し、息子の卒業までの
五年間、学業や部活動において温
かくご指導くださった先生方、そ
して共に学び励んだ仲間にも恵ま
れたことに感謝しております。

文武両道を目指し、息子なりに
努力してきた三年間。学業や部活
動において、思うように努力が実
らず悔しい思いをしながらも、壁
に立ち向かっていく後ろ姿を見守
りながら、遅く成長しているこ
とを嬉しくも思う高校生活でした。
「春風や闘志をいだきて丘に立つ」
卒業おめでとう。新しい出発。自
分の夢に向かって、一歩ずつでも
前に進んでくれることを願ってい
ます。

最後になりましたが、これまで
見守ってくださった皆様に心から
感謝いたします。ありがとうございます。

サッカー部の仲間たちと



喜田涼介君
(写真中央)



3学年部長としてPTA懇親
会司会や行事等にも積極的
に協力。写真は2013年4
月理事会より(右手前が喜
田さん)



感謝の心を胸に

三年P 海老原 弘子

加治木高校には三人の子ども達
がお世話になりました。どの子も
「加治木高校で学べて良かった」
と語り、大変嬉しく思います。

今春卒業の次男は、入学式の翌
日に迷わず野球部に入部。来る日
も来る日もランニング。脚を引き
ずりながらも「辞めたい」と口に
したことはありませんでした。光
る結果は残せませんでしたが、父
親がつけて続けた練習試合・大
会の記録を見ながら、親子で語っ
た時間・練習は誰よりも長かった
かもしれせん。そんな息子に私
の好きな言葉を贈ります。

感謝の気持ちを忘れてはならない
感謝の心があつてはじめて
物を大切にできる気持ちも
人に対する謙虚さも
生きる喜びも生まれてくる

最後になりましたが、息子に関
わって下さったすべての皆様に心
より感謝いたします。ありがとう
ございました。



↑2013年3月26日、県予選2回戦
樟南高校と対戦中の加治木ベンチ(昭良総合)



野球の試合応援には家族で、学年懇親会等
にはいつも夫婦で参加しました。

